

# AINプログラム

## 子どもの栄養改善1000日アプローチプロジェクト



## 子どもの栄養改善1000日アプローチプロジェクト

### ➤ 期間：

JICA：2017年9月-2021年11月（4年間）

AIN：2018年4月-2021年6月（3年間）

### ➤ 対象地：

プレアビヒア州トゥバエンミエンチェイ郡4保健センター

### ➤ カウンターパート：

- ・プレアビヒア州保健局栄養担当官
- ・トゥバエンミエンチェイ郡保健行政局

### ➤ 直接対象者：

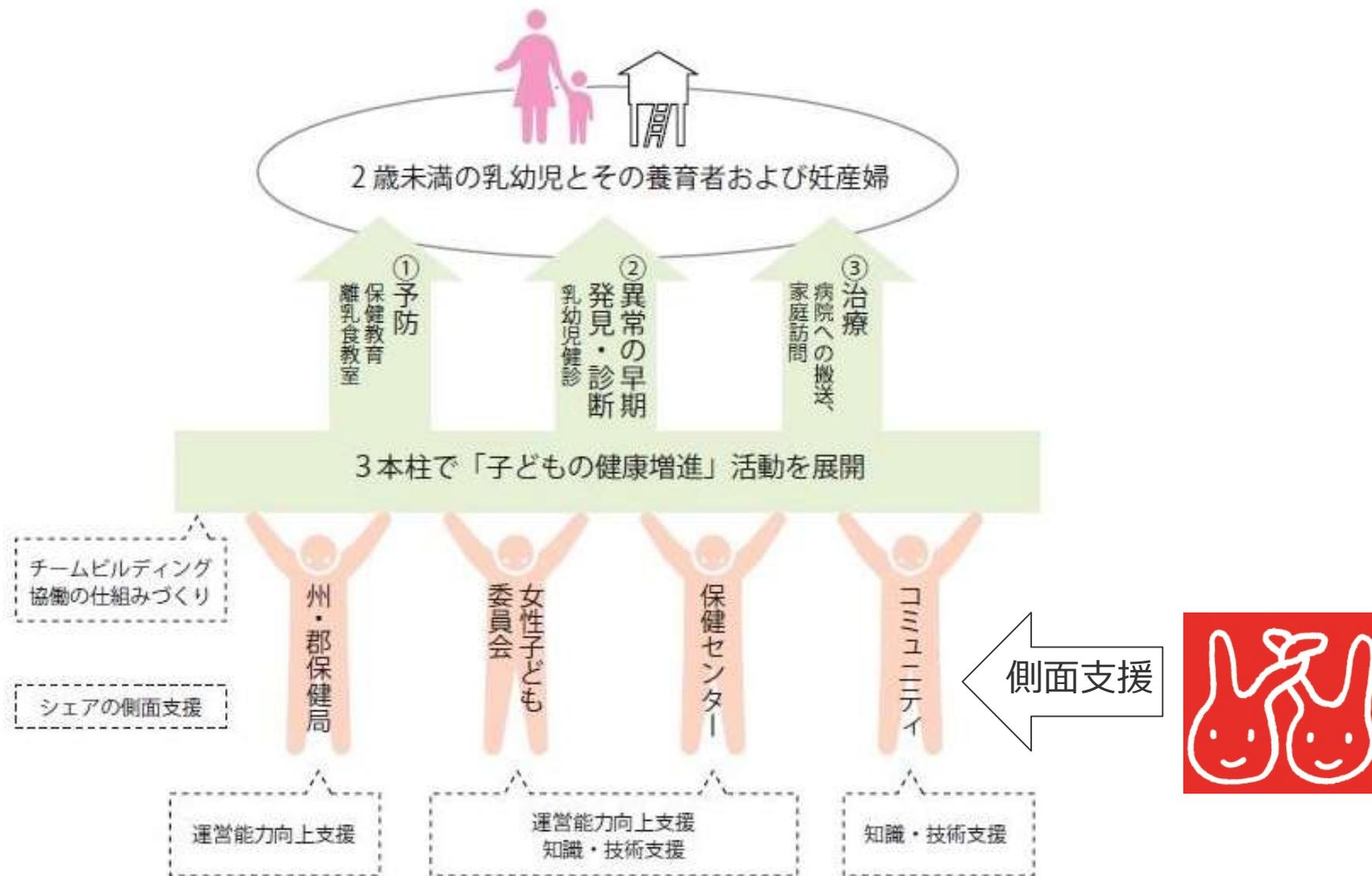
- ・4保健センタースタッフ40名
- ・保健ボランティア80名
- ・自治体女性子ども委員会11名

### ➤ 最終受益者：

上記保健センター管轄区の2歳未満の乳幼児約1100名とその養育者および妊産婦約890名



# 概念図

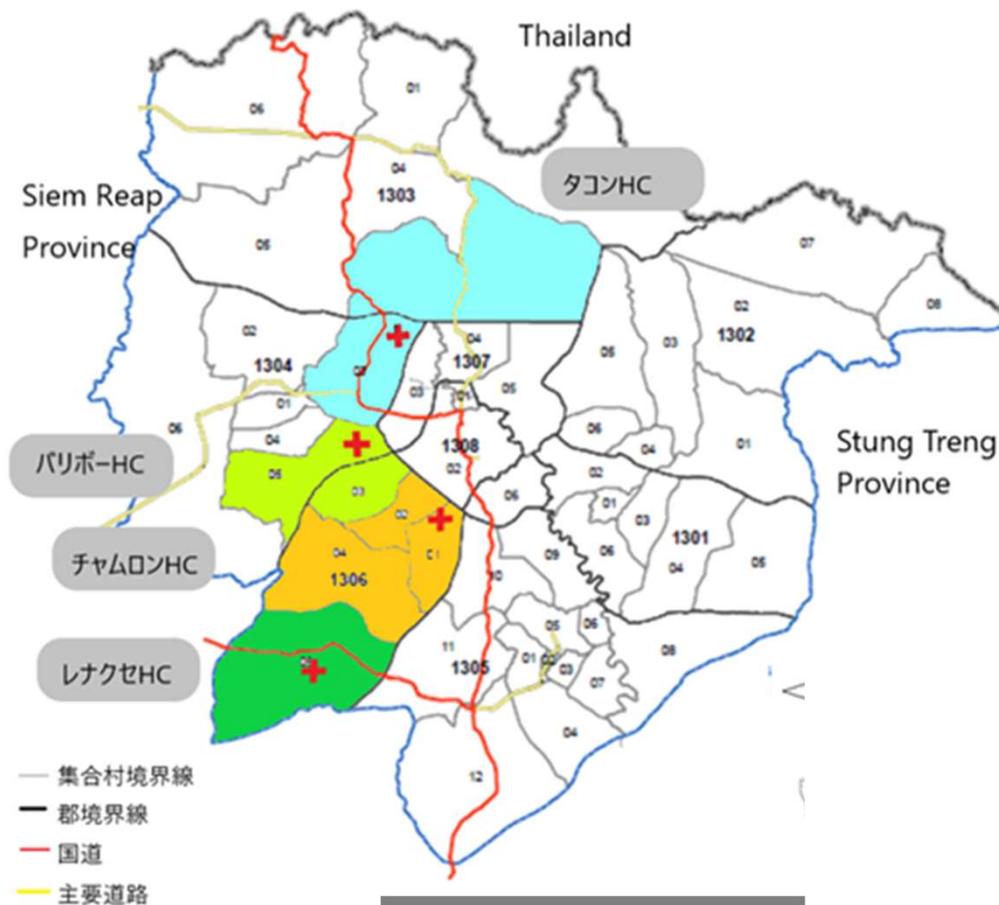




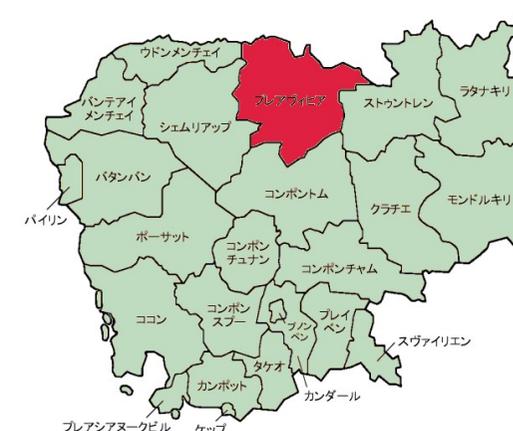
# 子どもの栄養改善1000日アプローチプロジェクト

目指す社会的  
インパクト

乳幼児の栄養に関する養育者の知識が向上し、  
行動が改善されることで2歳未満児の栄養状態が改善される



プレアビヒア州拡大地図



カンボジア地図

## 🎀 1000日アプローチとは？

- 胎児期から2歳の誕生日を迎える1000日間は、人の一生に大きな影響を与える（Lancetシリーズ, 2008）
  - 身体の成長
  - 脳・神経の発達
  - 代謝機能- 糖尿病などの生活習慣病のリスク
  - 免疫機能
- 2030年の目標達成に向けて、各国が栄養改善の取り組みを行っている。



## 🎗 プロジェクト実施の経緯～現地の課題～

- 離乳食についての概念が定着していないため、離乳食を始める年齢になっても始められていない。また、月齢に応じた食事の頻度と食品群を接種できていない。
- 2歳になるまで白がゆしか与えられない（塩や砂糖を加える等）
- 大人と同じものを与えてしまい、子どもが食べ得られないのを食欲がないと間違えて誤解をしている。

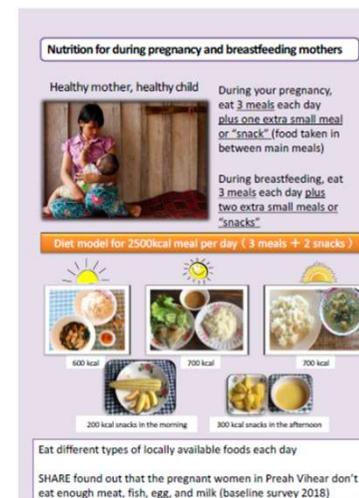
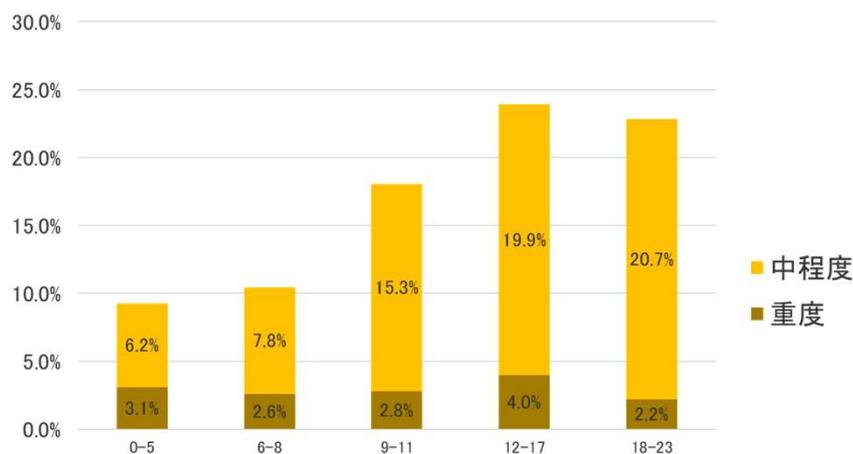


## プロジェクト実施の背景～方針～

前プロジェクト（プレイベン州）での10年にわたる活動を通して、活動地域の**低体重児の10%削減**に成功した実績をもとに、カンボジアでもっとも栄養指標が悪いプレアビヒア州での活動を決定

### 主なポイント

- 出生時の体重は適正体重範囲内であっても、特に離乳食への移行期にあたる6か月頃からの低体重児の割合の増加が顕著⇒**離乳食教室の実施の必然性**
- 乳幼児健診と離乳食教室の同時開催で参加者数がUp!
- 自治体（女性子ども委員会）の組織の存在と連携の模索
- 地域で採れる食材を活用した取り分け離乳食(Just One Time Cooking)



## プロジェクトの枠組み・スキーム

### 目的

プレアビヒア州トゥバイミエンチエイ郡  
保健行政区4保健センター39ヶ村に在住する2歳未満児の  
養育者の行動が改善する

↓  
6～23ヶ月児の乳幼児の栄養について適切な実践（母乳継続、食事回数、食材の種類）が  
できる養育者の割合がエンドラインの時点で増加することを目指す

### 主なアウトプット

#### アウトプット①

離乳食教室の研修の実施・レシピ本  
作成

#### アウトプット②

離乳食教室の実施・運営

#### アウトプット③

離乳食教室活動の報告

#### アウトプット④

離乳食教室に対する自治体予算配分

## 活動内容とその成果（アウトプット①）

女性子ども委員会の80%が離乳食に関する研修を受け、  
技術が90%まで向上する。⇒**ほぼ達成！**

- ✓ 2018年12月に、州および郡保健局による離乳食に関する研修のクラス型トレーナー研修を実施した。州郡女性子ども委員会と保健センタースタッフの67%が参加。
- ✓ 2019年6月には、クラス型トレーナー研修を受講した保健センタースタッフが主体となり、各保健センター管轄下の保健ボランティアと女性子ども委員会を対象としたステップダウン研修を実施した。69名の保健ボランティア（86.3%）と11名中10名のコミュン女性子ども委員会（91%）が参加。
- ✓ 研修内容としては、「三大栄養素について」「離乳食について」「妊婦の栄養について」に加えて、「母乳育児について」「1000日の定義」についても扱った

### 離乳食教室の研修を実施（活動1-2、1-3）



プロジェクト終了時点でのスキルチェックシートでは、  
個人差はあるが、全体平均としては88%まで達成

## Just One Time Cookingとは？

プレアビヒア版離乳食レシピ本の作成！（活動1-1）



**栄養専門家を派遣し、プレアビヒア州版の離乳食レシピを開発！  
取り分け離乳食（Just One Time Cooking:JOTC）として、  
カンボジアでなじみのある料理を作る家庭で子どもの離乳食も一緒につくります。**



レシピブック完成！  
皆さんに、配布しました

## 🎀 レシピブックができるまで・・・

### プレアビヒア版離乳食レシピ本の完成！（活動1-1）



プレアビヒア州版のレシピブックを作成するにあたって、プロジェクト開始当初に作成した村マップが活躍しました。2歳未満児の子どもがいる家のマーキングと水路やどういった食材にアクセスできるかの情報も含まれています。



月齢に応じた離乳食を  
紹介していきます

## 🎗️ 活動内容とその成果（アウトプット②）

保健ボランティアおよび女性子ども委員会の70%が、  
離乳食教室を実施している。⇒**達成!**

- ✓ 2021年3月時点での離乳食教室の実施が**79%**
- ✓ **コロナの影響**により、一時離乳食教室の実施ができない時期もあった。加えて、実施方針についても、各コミュニティごとの方針にも差が見られた。
- ✓ また、実施にあたっては各コミュニティの**女性子ども委員会の力量**にも差が見られ、定期的に開催されるコミュニティや全然開催されないコミュニティなどもあった。
- ✓ 活動2-2に予定していた参加型WSについては、現地と相談して離乳食のクッキングコンテストを企画していたが、**コロナの影響により実施できなかった。**

離乳食教室の実施（活動2-1）



## 活動内容とその成果（アウトプット③）

女性子ども委員会の90%が、離乳食教室活動を保健センターおよび自治体に報告している。⇒**ほぼ達成！**

- ✓ 女性子ども委員会での連絡系統（州レベル/郡レベル/コミュニティレベル）については、明確に規定はないものの、非常に連携が取れているように感じた。
- ✓ 保健センターとの連携という点では、毎月開催されているCWCC会議において、管轄の保健センター長が出席することも多いことから、そこでの情報共有を推奨
- ✓ **8コミュニティのうち6~7コミュニティ**では実際にCWCC会議での報告が行われていた。
- ✓ さらに、2020年からは、そこから**保健ボランティアの会議**や**保健センターの管理委員会**で共有を行うコミュニティも少しずつ見られ始めた。

コミュニティ会議（活動3-1,3-2）



## 🎗️ 活動内容とその成果（アウトプット④）

50%の村(20ヶ村)の離乳食教室活動に対して、自治体より予算が配分されている。⇒**達成!**

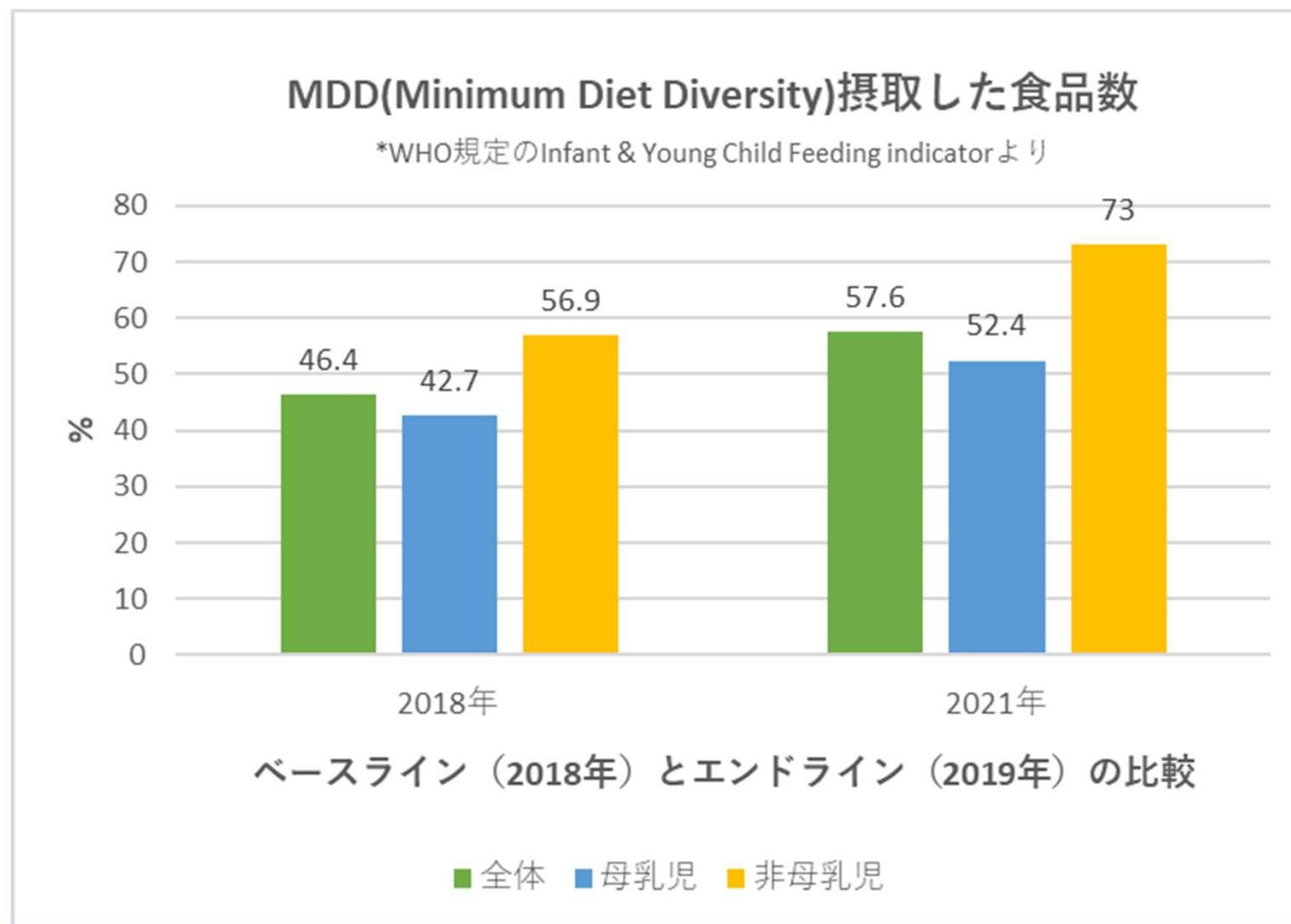
- ✓ 2019年8月に自治体予算獲得のWSを実施
- ✓ **全8コミューン39村全村が自治体予算を獲得**することにつながった（※当初設定していた40村のうち、1村については自治体として登録されていない村のため、除外とした）
- ✓ **1回あたり50,000リエル（約12,500円）**
- ✓ 37村が年2回、2村が年4回分の予算獲得（2020年度）
- ✓ 現在、少しずつ、実際に予算を活用して離乳食教室を実施している村も出てきている

### 自治体予算の獲得WS実施(活動4-1)

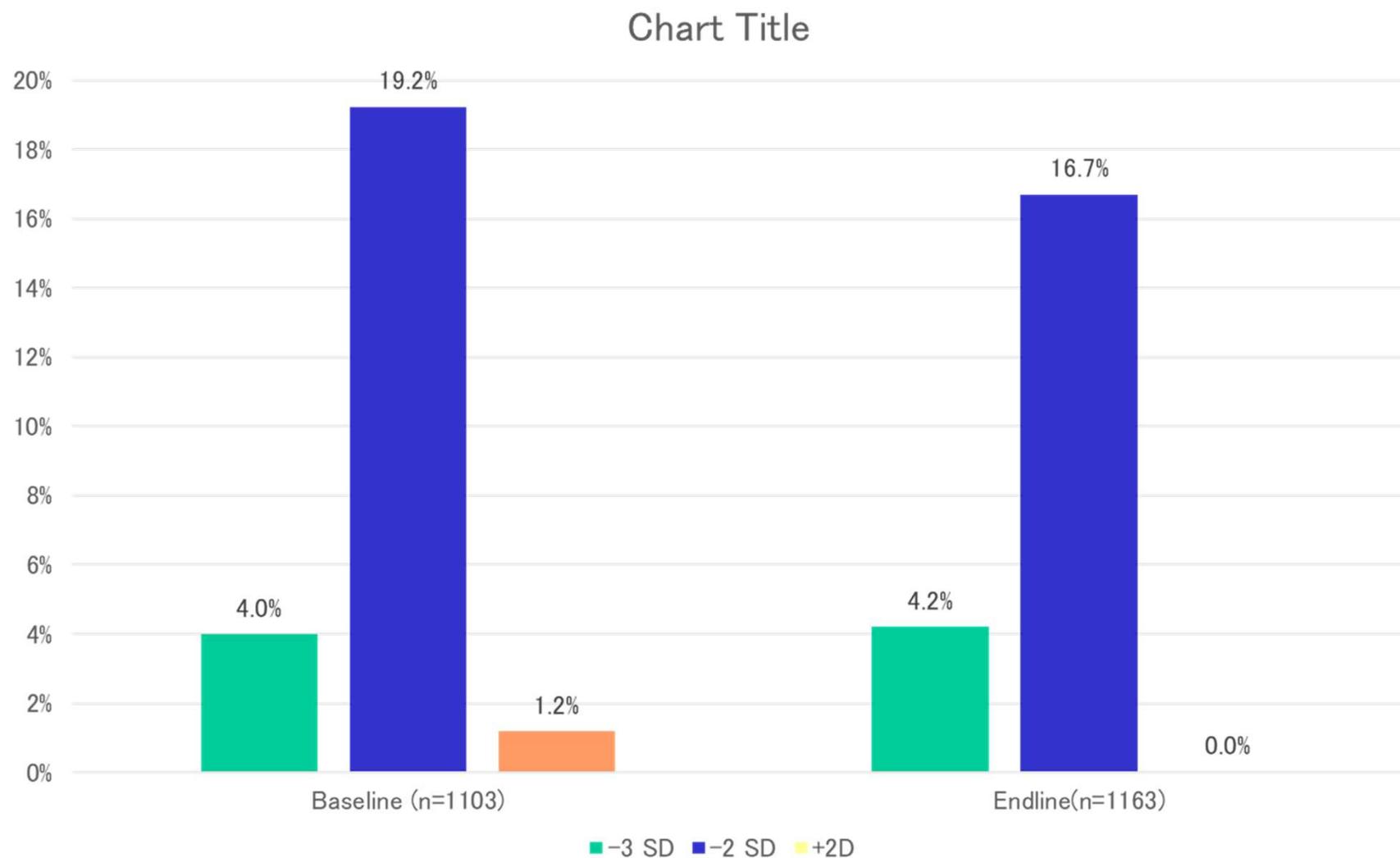


## プロジェクトの結果（養育者の栄養行動の変化）

※MMF(Minimum Meal Frequency)摂取した食事回数。  
MAD(Minimum Acceptable Diet)最低食事基準は分析中



## プロジェクトの結果（低体重の変化）



## まとめ

### 【指標データについて】

- ✓ 養育者の栄養行動（最低食多様性）については改善が確認された。  
（**11.2%**改善）
  - ✓ 低体重児の改善については**2.3%**の改善が見られたが、そこまで大きな改善には至らなかった。
- ⇒栄養行動の改善は確認されたものの、最終的な子どもの低体重の改善に至っていない。養育者の栄養行動の変化から子どもの変化にいたるので、引き続きの活動が大切なのではないか。

（補足）調査の中で、コロナ感染を恐れて、森や畑で離れて過ごす村人も確認された。コロナの影響までは、今回のプロジェクトの中ではその影響までの分析はできていないが、何らかの影響があるかもしれない。「The State of Food Security and Nutrition in the world」より、カンボジア全土において、コロナの影響で2014～2016年から悪くはなっていない。

### 【プロジェクト】

- ✓ 保健センターのみならず、自治体である**女性子ども委員会を巻き込む**ことにより、**各村での予算が獲得し、各村の予算を活動しての離乳食教室の実施の流れ**が生まれた。

## 🎗️ 現在、クラウドファンディングに挑戦中！



- 今週から2か月（60日間）、目標額400万円達成に向けて頑張ってください。
  - 特設ページはこちら

[https://readyfor.jp/projects/share\\_cb\\_sukoyakamirai](https://readyfor.jp/projects/share_cb_sukoyakamirai)



ありがとうございました！